

研究・調査報告書

| | |
|---|----------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 108 | 滋賀医科大学福祉保健医学講座 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Parkinson's disease risks associated with cigarette smoking, alcohol consumption, and caffeine intake 喫煙、アルコール消費量およびカフェイン摂取とパーキンソン病発症危険 | |
| 執筆者 | |
| Harvey Checkoway, Karen Powers, Terri Smith-Weller, et al. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| American Journal of Epidemiology 155:732-8, 2002. | |
| キーワード | |
| カフェイン、コーヒー、神経防御因子、パーキンソン病、喫煙、茶 | |
| 要 旨 | |
| <p>喫煙がパーキンソン発症危険度を軽減することは、過去 30 年の研究結果より知られている。最近の研究では、カフェインも予防的作用があるのではと示唆されている。ここでの結果は、1992-2000 年に西ワシントン州で実施された症例対照研究による喫煙、カフェイン、アルコール消費量とパーキンソン病に関するものである。パーキンソン症例は、210 例、対照は 347 例で性別と年齢の頻度を符合させたものである。対象者は全て健康保険組合員会員である。検討する項目調査は、個人ごとの質問票より得られた。喫煙経験者では、パーキンソン罹患危険の相対危険度は、0.5 であった。より強い関連は、現在喫煙者に見られ、その相対危険度は禁煙者と比較すると 0.3 であった。生涯喫煙本数とパーキンソン罹患危険度は、負の段階的な関連が得られた。コーヒー消費あるいは総カフェイン摂取、アルコール摂取量とは関連がなかった。しかし、お茶を 1 日 2 杯以上飲む人、あるいは、コーラを 2 杯以上飲む人では、その相対危険度は 0.6 であった。お茶、コーラの飲用とパーキンソン発症リスクの低下には、喫煙、コーヒー消費量は交絡していなかった。</p> | |